

気仙沼ほてい株式会社（気仙沼市）

生産部製造課 巻締機担当

荒木龍平さん（27歳）

Ryuhei Araki



ふかひれスープで
一躍名を挙げた
多品種少量生産で勝負

気仙沼ほてい株式会社といえば、ふかひれスープが看板商品で現在はレトルトパウチ製品がよく知られるが、これは1987年に発売された「ふかひれスープ缶詰」から始まっている。
現在、生産しているのは自社ブランドを表す「三陸産」を載せた缶詰製品、レトルトパウチ製品があり、さらに委託を受けて相手先ブランドで生産を行う、いわゆるOEM (Original Equipment Manufacturer) に対応している。
会社のはじまりは53年に創設された気仙沼食品株式会社にある。その後、ほてい缶詰株式会社の気仙沼工場となったが、84年に、気仙沼工場を分社化、今の社名である気仙沼ほてい株式会社として立ち上がった。

現在は、2015年に完成し、同年より生産を始めた新本社工場のほか、東日本大震災の津波により、大きな被害を受けたものの、11年12月には設備を再構築し、いち早く生産を再開した魚浜工場、さらに氷を製造する製氷工場の3工場体制を敷いている。

商品ラインナップは現状、100種類ほど。東日本大震災前は200種類ほどあったものを、絞り込んだ形だ。レトルトパウチ製品の「ふかひれ濃縮スープ」（広東風、北京風、四川風）のほか、

故郷の地元企業で自身を高める 気仙沼ほていの自信作を ぜひ多くの人に届けたい

最近では缶詰の「ぶり味噌煮」「ぶり大根」といった「ぶり」シリーズ、「さば味噌煮」「さばオリーブオイル」「さば水煮」がある。「さば」シリーズが代表的製品となっている。「ぶり」「さば」シリーズは震災後に開発された物だ。扱う製品数からも分かる通り、気仙沼ほていの特色は多品種少量生産を行うことで、消費者ニーズにきめ細やかに応じられることが強みになっている。

繊細であることを求められる作業だ。

これまでに荒木さんは新商品の製造にも携わっている。「新商品となると、型もまた新たに組まなければいけません。私はさばシリーズでその経験をしていて、本当に苦労しました。ちようど1寸法に合わせるのは本当に難しく、そうしたときは経験豊富な先輩が実地で手本を見せてくれて、助けられました。型にはマニュアルはあってもそれだけでは成り立ちません。手指で覚えるしかないというのを、そのとき改めて実感しました」

切り替えの早さを身に付ける 入社試験合格が 大きな自信になった

荒木さんは気仙沼市生まれ。きょうだいは1歳違いのお兄さんが1人。2人は本吉響高等学校（気仙沼市出身同じ野球部OBでもある。「兄は頭が良く、小さい頃から野球も上手でした。私はそこまでではなく、いつも比較されていて嫌だと思っていた。ミスをするとき、よくよくしていましたね（笑）。それであるとき、切り替えだけは早くしようと思いついて、その訓練を始めた。そうしたら、実際に素早く切り替えられるようになったんです。これは社会人になった今も役に立っています」

高校に入った頃は具体的に進路を考えていたわけではなく、三年生になって就職することを決断した。業種については、プラモデルづくりなどで培った手先の器用さを生かすにはものづくりの会社がいいと思った、という。また、母親を2011年の8月に病気で亡くしており、その後、お兄さんが独立し地元を離れると、荒木さんはそうした環境下で、「祖母もいて、父と一緒に家を守ったほうがいいと思いました」と、できる限り、気仙沼にいたいと決めている。

気仙沼ほていは東日本大震災で全ての工場が被害を受け、一時、事業休止を余儀なくされた。

缶詰の品質を守る 巻締工程に全力注ぐ

同社の生産部製造課で巻締機を担当する荒木龍平さんは入社4年目の21歳。巻締機は英語でシーマー (Seamer) と呼ばれる内容物の入った缶に蓋をする機械だ。多いときだと1時間に3800個もの缶のふたを締める。

「実際にラインを稼働させる前には暖機運転を行います。その後、水を入れた缶に蓋をして水が漏れてこないか確認します。そして、大丈夫となつて初めて、本稼働という流れになります。うちは多品種を扱っているので、シーマーの調整は実に細かく行わなければなりません。製造を行う物に合わせて機械の構成を変えたり、型を替えと呼ぶのですが、この型替えがまた大変です」と、言葉とはうらはらに朗らかに話す荒木さん。重い部品を入れ替えると同時に、



a: シーマーに向き合う荒木さんはいつも真剣だ
b: 型替えは細やかさが求められる
c: 缶詰の製造は多ければ1時間に3800個程度行う



a	b
c	d
e	

a: 大きな工具を使ってのシーマーの調整もお手の物 b: 丁寧に蓋を配置していく
 c: 実際の出来栄を見るため、巻締部分を解体して確認する d: 精密測定器で巻締部分に異常がないかをチェック
 e: 蓋の閉じられた缶詰が大量に流れていく様は圧巻だ

「センパイから/
未来のACEへ!



決断する際に大切なことは、「自分が何を最も大事にしているか」と思っています。自分のことを一番分かっているのは自分だからこそ、その点をしっかりと考えておくことが大切です。

でも、迷うことがあるのであれば、その悩みを他の人に話し、そして、意見をもらうことも大事です。まず、誰かに悩みを話すことで自分の考えが整理できます。それから、人からの意見で、気付いていない自分を知ることもあるからです。

就職先を決めるということは確かに一大事です。深く悩んでしまうことも分かります。でも、行動を起こせば、きっと社会は受け入れてくれます。ぜひ、怖がらず飛び込んでいってください。

巻締主任技術者資格取得に向け 勉強にも熱が入る日々 今の目標は主任になること

現在、荒木さんは巻締主任技術者資格取得のための準備を進めている。公益社団法人日本缶詰びん詰レトルト食品協会主催で、1年に1回講習会が実施され、その後、試験を受けて合格が決まる。受験資格は高卒の場合、「缶・びん詰製造実務経験年数が通算3年以上かつ巻締実務年数が1年以上の者」とされており、荒木さ

そこから事業再開に手を尽くし、そして、今に至っている。新工場ができ上がったのも震災から丸4年以上が経ってからのこと。道のりは決して平坦ではなかった。荒木さんは、「昔からふかひれスープを食べてよく知っていた」会社である気仙沼ほていが、震災から立ち上がる姿を目の当たりにしてきた。そうした背景もあり「地元で、そして、気仙沼ほていで働くことでも少しでも地域活性化に貢献したいとも考えました」。何とも家族思い、故郷思いの若者である。

工場見学などを経て、入社試験を受験し、見事合格。「内定をいただいたときはとてもうれしかったです。その頃はまだ、自分に自信がなかったのですが、入りたいと思った会社に認められたことで、大いに自信にもなりました」

荒木さんの今の具体的な目標は、入社10年目までに主任になること。「お手本にしている先輩がいて、その人は私からしたら、本当に何でもできる人。自分もそういうふうになりたい」。巻締主任技術者資格取得のための勉強も含め、荒木さんは今、会社内での存在感をより高めていくべく、研さんの日々を送っている。

「今年、その資格を得たことになる。一回、機会をいただけることになって自分でも勉強はしっかり進めています。やはり、これまでやってきたことを体系的に整理するのは非常に意義深く感じます。また、より自信を深めるためにも頑張りたいです」

会社としても荒木さんにかかる期待は大きい。資格取得を勧めたのも、尾形健彦執行役員生産部部長いわく「世代交代を見据えて」の意味が大きい。「若い人がどんどんスキルを身に付けて、どんどん発言力を持ってほしい」というのは会社の本音だ。



a: さまざまな測定器を用いて仕上がりを確認する b: 尾形執行役員(左)にアドバイスを求める荒木さん
 c: 缶詰の看板商品の「ぶり」シリーズと近年開発された「さば」シリーズ d: 「ふかひれ濃縮スープ」は気仙沼ほていの代表商品である

教えてくだない! ACEの仕事ぶり

話しやすい雰囲気◎。近い将来製造課の中心になってほしい

明るい性格で話しやすい雰囲気を持っていきます。積極的にコミュニケーションを取ってくれるので、その点も安心していきます。今の若い人たちは受け身の人が多いなど感じています。荒木くんの場合は全くそういところがありません。

仕事にも非常に前向きに取り組んでいて好感が持てます。何事にも意欲的に挑戦するタイプであるという点にも信頼が置けます。手先は本当に器用で、何でもすぐにできてしまいますね。自信を持って仕事に取り組んでいることが分かります。

今後はよりリーダーシップを発揮して、製造課の中心になっていってほしい存在です。



多品種少量生産で100アイテム以上扱う 「ふかひれ」はじめ地元の特産を全国に届ける

基本理念を「人はみな豊かでなければならない 我々に関係する人はみな どうしても豊かでなければならない」と掲げる。「地域商材を利用した高付加価値製品の物造り」をコンセプトに、安全と安心に配慮しつつ、「三陸ブランド」を国内外に発信している。通常のレトルトパウチ、缶詰だけでなくギフト用商品も用意、「ふかひれラーメン」などが人気となっている。



気仙沼ほてい株式会社
 □所在地/気仙沼市本浜町1-43-1 □代表取締役社長/山本 達也 □資本金/2,000万円 □設立/1984年4月
 □従業員数/121人(2020年3月現在) □事業内容/缶詰やレトルトパウチの製造、販売
 □社訓/「一、経営は予定でなく結果である 一、目標は創意と熱意と人の和で達成せよ 一、言葉は不用 数字で示せ実績を 一、高付加価値の生産に徹し あくなき利益の追求を計れ 一、常に競争のなかに繁栄があり 繁栄のなかに利潤がある」
 TEL 0226-22-5300(本社工場) <https://www.kesennumahotei.co.jp/>



弘進ゴム株式会社 巨理工場（巨理町）

品質保証部

熊谷 悠莉 さん（18歳）
Yuri Kamagari

80年を超える歴史を持ち
暮らしに不可欠な製品を提供
17年には地域未来牽引企業に

弘進ゴム株式会社は1935年、仙台市古城に設立された弘進護謨工業株式会社を母体とする。その後、43年に弘進護謨工業と三馬護謨工業（資本金）が合併し、三馬弘進護謨工業株式会社に。弘進ゴム株式会社と社名が変更されたのが58年、そして、巨理工場が立ち上がったのは66年のことである。90年代には海外に進出、中国・大連市に合作による大連第二工場を設立、91年から生産を開始した。

弘進ゴムはゴム、ビニル等の樹脂を原料とする様々な商品を製造している。特に国内トップシェアを誇る長靴の他、作業靴などのシューズ類、合羽や前掛などのウェア関係でラインナップが充実している。さらに、ホースはトンネル、自動車、病院などで用いられ、シートはプールやゴルフ場、工事現場など多岐にわたって使用されている。つまり、弘進ゴムはあまり自立たないものの、暮らしに必要な不可欠なものを数多く作っている会社だと言える。

また、2017年には経済産業省から、「地域内外の取引実態や雇用・売上高を勘案し、地域経済への影響力が大きく、成長性が見込まれる」とともに、地域経済のバリューチェーンの中心

企業価値向上に寄与する 商業高校からメーカーへ 興味ある世界へ踏み出した

的な担い手、および担い手候補である企業。だとして「地域未来牽引企業」の選定を受けている。

社会貢献への意欲も非常に強い企業で、11年3月に起きた東日本大震災の被災体験から、日本に限らず、世界中で災害支援を行っている。病原菌の蔓延防止のための長靴や、災害現場で大いに活躍するホースを積極的に提供、世界から称賛を得ている。

う話す姿は就職してからの日々が充実していることを窺わせる。

熊谷さんはものづくり企業である弘進ゴムに入ったが、出身校は大河原商業高等学校だ。高校では珠算電卓部に所属。二、三年時には全国高等学校珠算・電卓競技大会宮城県予選会で団体優勝に貢献、全国大会の舞台も踏んだ。電卓競技では総合個人で県2位となった経験も持つ。ちなみに全国商業高等学校協会主催の珠算・電卓実務検定試験1級、情報処理検定プログラミング部門1級の合格者でもある。

品質保証部に配属され 新しい刺激を受ける日々送る

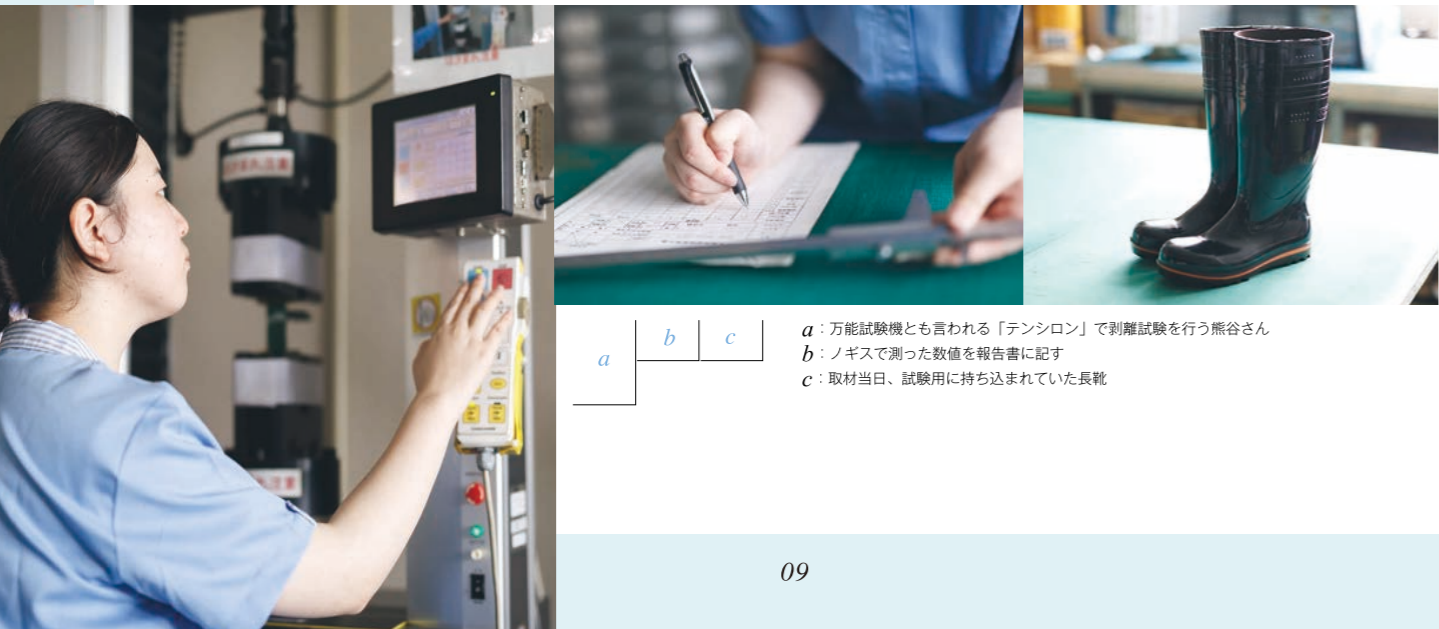
熊谷悠莉さんが、弘進ゴムに入社したのはこの4月のことだ。研修期間を経て、4月29日に辞令が下り、配属されたのは巨理工場品質保証部。以来、製品の様々な試験に動んでいる。「引張機を使って、様々な材料の引っ張り強度を調べたり、どれくらいの力で剥がれるかを測る剥離試験をしたりするのが主な仕事になります。試験に使う材料も自分で短冊状に切り出します。高校時代には考えられなかった、新しい刺激を受ける毎日です」。長靴に使うゴム素材や、コンテナバッグ用のターポリンシートや遮水シートなど、会社で扱う物は全て試験対象となる。出社し、その日に実施する試験用の材料を確認したら、行うテストに合わせて機器の調整を行う。品質保証部の仕事は実に大変だが、そ

小学生でそろばんに夢中に 事務系での就職思い描くも ものづくりの世界に 心引かれた

小さい頃から、数字に興味があったという熊谷さん。「小学校三年生からそろばんを習ってとにかく解けることが楽しかったんです。答えが決まっただけで、それを導き出すことに面白さを感じていました。中学に入ってもその傾向は変わらず、やっぱり数学は好きでした」

一方で部活動では軟式テニス部に所属。三年時には県大会に出場、団体でベスト16に入った。「みんなで県大会出場という目標を掲げ、そのためにどんな練習をしたらいいか考え、実践してきたことはとてもためになりました。チームの中で自分に与えられた役割を果たす重要性も知ることができ、とてもいい経験でした」

同校への進学を選んだのは、シンプルに「社会に出て、早く仕事をしたいから」だという。ただ、その時点ではやはり事務系での就職を思い描いていた。転機が訪れたのは二年生の時。「流通について学ぶ機会があつて、そこでその先にあるものづくり会社、メーカーに興味を持ちました。調べていくうちに、私に向いているのはこれだ、と思いました」
もともと「新しいことに強く関心を持つタイプ」。決断に迷いはなかった。



a: 万能試験機とも言われる「テンシロン」で剥離試験を行う熊谷さん
b: ノギスで測った数値を報告書に記す
c: 取材当日、試験用に持ち込まれていた長靴

面接で自分の思い伝えた
入社5カ月、課題はあるも
18歳は明るい未来を見通す

製造業への就職を考えている旨を、両親、進路指導の先生に話すところから賛成を得られた。自分の希望がしっかりしているならば、そこに向けて頑張りたいと背中を押されました。

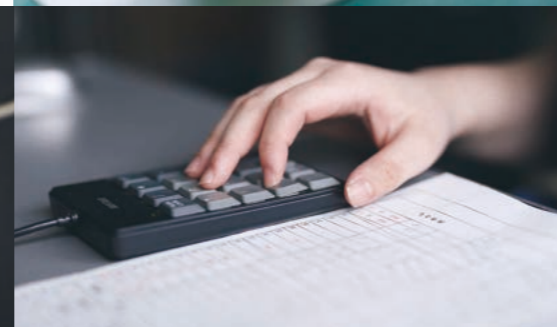
7月1日に求人票が公開されると、すぐに製造業のものを確認した。4、5社に絞ったが、そのうち3社を見学し、弘進ゴムの雰囲気が一番自分に合っていると感じた。「すれ違ふときにあいさつを自然にされていて、また、仕事をしている様子も楽しそうに映りました。実際の製造現場を見たときは想像していたのと違ってびっくりしましたが、そこにも興味をそそられました」

採用試験は「緊張した」という。「筆記のときは頭が真っ白でした。それでも「面接は言いたいことを言え」と思います。商業高校出身の私がなぜ弘進ゴムに入りたいかについて、しっかりと話せました。熱き思いは伝わり、試験から1カ月ほどで内定の知らせを受けた。「やっぱりうれしかったです。すぐに（珠算）電卓部の顧問の先生に伝えに行ったら、すごく喜んでくれました」

カーをプレゼントした。「お酒を飲むのに、炭酸水を買って使っていたので、家で作れる炭酸水メーカーだったら喜ばれるかなと考え、兄とお金を出し合せて、買いました。あけてから数カ月経っていますが、今も使ってくれているので役に立っているようです」

入社してまだ5カ月、覚えることはそれほど山ほどあるようだ。「知らないことを一から知ることができるので時間はあつという間に過ぎます」。そして、少しずつ課題も浮かび上がってきた。「数値の入力ミスなどケアレスミスが結構あります。これは改善しなければなりません」

将来的には製造現場も当然経験したいと考えている。そして、その前に品質保証部で求められることを覚えていくのが、熊谷さんの今の目標である。澄んだ瞳は未来を見据える。ものづくりの世界に魅せられた18歳の、挑戦の旅はまだ始まったばかりだ。



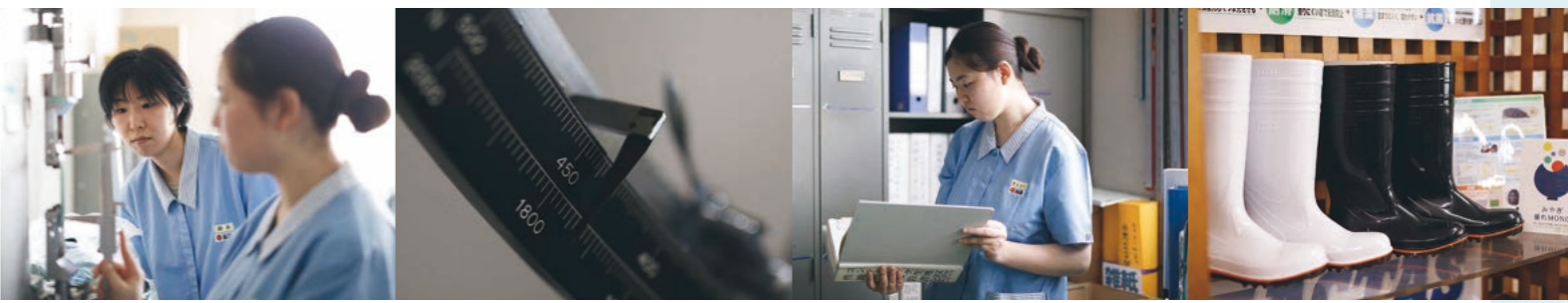
a: 試験用に切片を作るのも熊谷さんら品質保証部の面々が行う b: 工具の扱いも手慣れたもの
c: コンテナバッグ生地をショッパー型引張試験機にセットする d: テンションで得られたデータを確認
e: 高校時代電卓部に所属した熊谷さんはテンキーの操作も軽やかだ

a	b
c	d
e	

先輩から/
未来のACEへ!



商業高校だから事務系、工業高校だからものづくり系の会社に就職しなければ、と自分の可能性を狭めることはしたくない。自分が好きなんだろう、どんなことに向いているのかな、と考えながら就職先を見つけていくのがいい方法ではないかと思えます。私は結局、机に向かって何かをするより、体を動かしているほうが好きで、今まで経験のないことに面白さを感じる性分です。だから、弘進ゴムに就職できて本当に良かったと思っています。それから、決めるのは自分でも、相談はしたほうがいいです。人に話を聞いてもらい、理解されると大きな励みになります。



a: メンターでもある鈴木さん(左)は頼もしい先輩だ b: 数値は細かく、そして正確に測る
c: 過去の試験記録は大事な参考資料だ d: 弘進ゴムで製造する安全衛生長靴「ハイブリーダーガード HB-500」は第11回みやぎ優れモノ認定製品だ

「常にお客様の立場にたった製品づくり」がモットー
製品を通して「豊かな暮らし」づくりに貢献したい

現在はシューズ・ウェア部門と化工品部門が2本柱。シューズ・ウェア部門は創業以来製造している長靴をはじめ、作業用のシューズを中心とした履物類、レインウェアや合羽等を扱う。化工品部門は自動車や各種機械の中間材、土木建築・農林漁業等に使用される産業用ホースを中心とした工業用品などをアイテムに持つ。生活に密着した商品展開で豊かな暮らしづくりに貢献する。



弘進ゴム株式会社 巨理工場
所在地/仙台市若林区河原町2-1-11(本社)・巨理郡巨理町逢隈田沢字北尻石5-1(巨理工場)
取締役社長/西井英正 資本金/1億円 設立/1935年6月10日 従業員数/343人(2020年2月現在)
事業内容/ゴム・ビニル製品の製造・販売
経営理念/「わたしたちは、新しい価値の創造で豊かな暮らしを実現します」
 TEL 0223-34-3151(巨理工場) <https://www.kohshin-grp.co.jp/>



教えてください! ACEの仕事ぶり
慌てない性格は大きな特長。これからは初心忘れず丁寧さを第一に



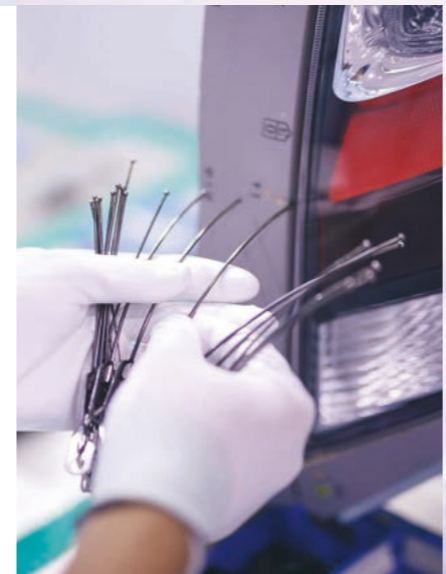
渾身良品質保証部次長(左)も熊谷さんの成長を温かく見守る

熊谷さんはどちらかといえばおっとりしたタイプです。ただ、それは落ち着きを感じさせるもので、彼女の長所だと私は思います。まだ、入社5カ月で、品質保証部に配属されてからでも4カ月なので、仕事上のミスが全くないということはありませんが、そのミスをしっかり今後に生かそうとする姿勢も素晴らしいです。分からないことがあれば自分から聞きに来てくれるので、仕事の覚え自体も早いですね。過去のデータと見比べるなど研究熱心で、品質保証部にぴったりの人材だと考えています。これからも丁寧さを第一に心がけて、初心を忘れずに頑張っていってほしいです。



株式会社スタンレー宮城製作所（登米市）
製造部製造二課

及川 翔太さん（25歳）
Syoia Okawa



交通安全に欠かせない 自動車照明製品製造工場で 若き力が品質保持に尽力

自動車機器や電子機器など
光に関わる製品を生産
光による5つの価値の探求
によって社会的価値を創造

株式会社スタンレー宮城製作所はスタンレー電気株式会社を核とするスタンレーグループの一員だ。「光に勝つ」を「スタンレースピリット」として掲げる同グループだが、この「光に勝つ」は人間に多くの恵みをもたらす、無限の可能性を持つ光に勝つことは確かに無理だが、そうした実現不可能なほど高い目標に挑戦しようという、いわばグループの「気概」を示すものである。

そうしたグループの中で登米市にある同社は、自動車灯体製品を中心に光に関わる製品の生産を主事業として展開する。2015年には新工場が稼働、20年には50周年という大きな節目も迎えた。具体的な生産品目には、ヘッドランプやリアコンビネーションランプ、光学シート製品、各種LED照明製品が挙げられる。

及川翔太さんは現在25歳。自動車用リアコンビネーションランプの製造を担当する製造部製造二課に所属する。普段の役割は、異常などの処置を行い、製造ラインが正常に流れるように管理する係で、時には設備のメンテナンスも行う。ダンチノギスやスキマゲージを使って、丁寧に、かつ迅速に製品の状態を確認していく。その目は実に真剣だ。

空手で鍛えた精神力で
どんな難関も乗り越える
会社発展に貢献したい

及川さんは旧米谷工業高等学校（登米市）卒業後、消防士を目指し、東京法律専門学校仙台分校で2年間、警察官・消防官・自衛官コースに通った。しかし、残念ながら消防士採用試験には受からず。そこで民間企業への就職に気持ちを切り替えたとき、出合ったのがスタンレー宮城製作所だった。「地元で働きたい」という思いが、以前からのものづくりに興味がありました。有期雇用での採用が決まると、もとの高い能力もあり、どんな仕事も覚えていった。そして、働き始めてから3年を迎えるにあたって、正社員登用試験の受験を薦められ、見事、合格を果たした。

及川さんは自身を「任せられたことは責任をもってやりたいタイプ」と分析する。「お客様に納品して、それが不良だということに戻ってくるのは本当に申し訳ない。良・不良の判断は自分でするわけだから、最善の注意を払ってしっかり行つよう、常に自らに言い聞かせています」

小学二年生から空手に打ち込み、中学の時には全国大会にも出場、団体でベスト16になった経験もある。「空手では、くじけない心を学びました。それは社会人として働く今も大いに生きています。」「上の役職について会社を引っ張りたい」という強い思いを持つ及川さん。スタンレー宮城製作所に、実に頼もしい人材がいる。



a: 製造したリアコンビネーションランプに問題がないか細かく確認 b: ダンチノギスで車体に取り付けたときの段差を測る c: 持ち前の明るさで積極的に同僚とコミュニケーションを取る d: 生産管理版の記入も大事な役割だ

教えてください! ACEの仕事ぶり 責任感を持ってしっかり仕事をする姿が素晴らしい



翔太くんは、いい意味で現代っ子ばくなくですね。言われたらすぐ何事でも取り組んでくれますし、言われる前から自分で考えて行動できています。職場には翔太くんよりかなり年上の女性も多いのですが、そうした人たちからも頼られる存在になっています。責任感が強いのも特長です。

現状、順調に成長してくれていますが、今後はもっと取引先など外部の人とも交流して視野を広げてくればと思います。そしていずれ、まずは私の上立ってほしい。やればできるのできつと実現できます。



「翔太くんは息子と名前、誕生日が同じで本当にわが子のよう」と及川課長。リーダーシップに大いに期待する



私の場合、専門学校在学中、目指していた資格が取得できず、卒業後の身の振り方を悩んだ経験があります。そんなとき、すごくありがたかったのは周囲の人の存在でした。スタンレー宮城製作所と出会え、自分の地元で働くことができましたのも、とある方からのアドバイスのおかげでした。私は助けを求めれば人は手を差し伸べてくれると考えています。何かやりたいことや、困ったことがあったら、人に相談してみる。そうするといろんなものが見えてくるはずなんです。やる前から諦めるのではなく、まずは一歩踏み出して、みるのが大事です。うまくいかなければ、またその段階で考えればいいのです。

スタンレー宮城製作所

- 所在地 / 登米市迫町北方字川戸沼 20-2 □代表取締役社長 / 川上 憲英
 - 資本金 / 4億9,000万円 □設立 / 1970年5月22日 □従業員数 / 164人 (2020年4月現在)
 - 事業内容 / 自動車用ヘッドランプなどの灯体製品、液晶バックライト用光学フィルム製品等
 - 経営理念 / 「宮城の地において、自動車から電子に至る事業領域で成型・実装・組立を中核にしたものづくりを通じて社内外ともに安全安心を提供し続けている」
- TEL 0220-21-0070 <https://www.stanley.co.jp/miyagi/>



東北特殊鋼株式会社(村田町)
鋼材事業部鋼材製造チーム
菅原 宏太さん(27歳)
Koia Sugawara



母親思いの心優しい若人が 特殊鋼専門メーカーで 主力事業の鋼材製造に邁進

幼少期から自動車好き 東北特殊鋼への就職叶い 充実の日々を送る

菅原さんは白石工業高等学校機械科で学び、東北特殊鋼に入社した。「高校で学んだ工具の扱いや図面の見方は、今とても役に立っています。そう話す姿はとても爽やかだ。子どもの頃から自動車が好きで、何か自動車製造に関わる仕事があったらいいです。それで白石工業に進学しました。中学の頃には東北特殊鋼のことは知っていませんでした。高校に入ってから、働くなら東北特殊鋼と自分で決めていました。目指す所が決まっていたら、自然と勉強にも身が入るもの。東北特殊鋼で働きたいという思いも揺らぐがなかった。無事採用となったときは「やっぱり」とうれしかった。そうだ。自動車製造に携わる仕事と一つ、本社が宮城県にある企業で、かつ自宅から通えるということを重視したのははっきりとした理由がある。「わが家は母と私の2人家族。母を支えるためにも家から通えるという点は大事でした。何とも母親思いの、心優しい若人である。入社3年目で「しっかりと順調に成長できていて」と手紙はあるが、目指す所はもっと上だ。「どんな仕事でも任せられ、頼られる存在でありたい。トラブルへの対応力もさらに付けていかなければなりません。まだまだ努力が必要だと考えています」。そう話す菅原さんはとても力強かった。



a: 材料を手際よく伸線機に投入していく b: 設備の調整、メンテナンスも重要な仕事だ c: 鋼材の表面を確認する菅原さん d: 指定寸法に整えられた鋼材

教えてください! ACEの仕事ぶり 仕事自体に大いに興味を持ち積極的に取り組む姿が頼もしい



指示を待つ、やらされている、というふうに見える若い人もいるのですが、菅原くんの場合はその逆で、とても積極的に仕事に取り組んでいます。分からないことがあれば、すぐに尋ねてきて、熱心に話を聞いています。また、教わる際にはメモを必ず取り、一度で覚えようとするのも彼の特長だと思えます。そのため、私たち先輩が二度、三度と同じことを言うことはありません。既に高いレベルにありますが、もっと精度を高めるべく、さらなる技術習得に動き、より優秀なオペレーターになってほしいです。



「真面目で物覚えもよく、菅原くんは既に大きな戦力になっています」と平塚さん。今後の更なる飛躍も求めています。



就職するにあたり、私は業種や仕事内容で悩むことはありませんでした。幼い頃から自動車に興味があり、中学のときには既に自動車製造に携わる仕事に就きたいと考えていました。実家から通え、自動車製造に関わる仕事、これが私の就職先を探す上での二大条件でした。そして、それを満たすのが東北特殊鋼だったのです。この経験から、私が高校生の皆さんにアドバイスできることは優先順位を決めると、おのずといるようなものが決まってくる、ということです。自分はどうな条件がそろっていれば、その会社で楽しく仕事ができるのかを考えてみることは、就職先選びにとっても有益だと思います。

本多光太郎博士の提言で誕生 耐熱鋼で約70%の市場シェア 特殊鋼業界で高い存在感誇る

東北特殊鋼株式会社は1937年4月、鉄鋼金屬学研究において世界に名を馳せた東北大学・本多光太郎博士の提言により誕生した。80年以上の歴史を誇る同社は、現在も高品位の特殊鋼の専門メーカーとして、あらゆる顧客ニーズに応え、さらには特殊鋼の新たな可能性を追求している。様々な分野、業種と取引を行っており、自動車の吸・排気エンジンバルブ「耐熱鋼」、電子燃料噴射装置「電磁ステンレス鋼」において、とりわけ高い存在感を示している。同社の調べによれば、耐熱鋼で約70%、電磁ステンレス鋼で約60%の国内シェアを誇る。これらは自動車の心臓部となるエンジンを構成する重要な部品であり、その製造には高い技術力とともに高品質であることも強く求められる。そうした社会貢献度の非常に高い企業に菅原宏太さんが入社したのは2018年4月のこと。鋼材事業部鋼材製造チームに所属し、担当する仕事を一言で言うと「様々な特殊鋼のコイル素材を、注文を受けた寸法のバー製品にすることだ」。引抜タイスという工具鋼を用いて、ご希望のサイズにするのですが、バー状にするのに機械の調整をしっかりと行わないと、曲がってしまうんです。業界用語では『曲がりを取る』というんですが、これが物によって実に大変です」

Data

東北特殊鋼株式会社

- 所在地 / 柴田郡村田町大字村田字西ヶ丘 23 (本社・工場) □ 代表取締役社長 / 成瀬 真司
- 資本金 / 8億2,750万円 □ 設立 / 1937年4月20日
- 従業員数 / 381人 (2020年3月現在) □ 事業内容 / 各種特殊鋼材の製造、加工及び販売
- 創立の精神 / 「高級特殊鋼を製造し、産業界に貢献する」

TEL 0224-82-1010 <http://www.tohokusteel.com/ja/index.html>

